

# みずみどり

1999年1月15日 第10号

発行：いたばし水と緑の会 事務局

年会費 2,000円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会  
ホームページ <http://www1.odn.ne.jp/~caa98300/itabashi.html>

〒173-8501 板橋区板橋2-66-1 TEL 03-3579-2598

板橋区環境保全課内 FAX 03-3579-2589

## いま美術館前の池がおもしろい

## 生き物たちの水辺づくりに参加しませんか

板橋区では平成10年度に市民参加による自然整備事業に取り組むことになりました。場所は、区立赤塚溜池公園の一角にあるコンクリートの小さな池と美術館の裏の湧水路です。

設計にあたっては、自然保護団体、地元町会、行政側としてみどりと公園課、児童課、環境保全課などが一同に集まって、さまざまな公園利用者のことも考えながら、生き物の生息環境を検討しました。赤塚城址をフィールドとしているいたばし水と緑の会も全面的に協力しています（詳細は本誌8号、9号参照）。

自然回復の視点で赤塚溜池公園全体の将来像も考えたいという意見も多数出ましたが、今回は第一歩として、コンクリートをはがし土の池にして湧水を引き込みます。多数の区民が池づくりに参加し、みんなで生き物がやってくるのを見守りたいと思います。

整備後は、水と緑の会赤塚の森ボランティアが中心になって、新たな参加者も交えて定期的に池周辺の詳細な自然調査をしたり、オープンな観察会を行うことになると思います。

### 池づくりを体験しよう！ ボランティア募集

水路の整備と池のコンクリート壊しは委託業者が工事します。池の基礎工事が終わった後、手作業のところは住民参加でやります。自然を取り戻したいと思っている人、土で遊びたい人、気持ちいい汗をかきたい人、参加しませんか。小学生低学年以下は保護者同伴でお願いします。



と き：平成11年3月中旬から3月末  
（予定では3月20, 21, 22日の3連休）

場 所：美術館前のコンクリート池  
（赤塚溜池公園内）

内 容：粘土を張ったり、土を入れたり、水草を植えたりの作業です。

持ち物等：汚れてもいい運動靴や服装、タオル等。あればスコップ。

申 込 先：環境保全課水環境係 TEL 3579-2598 FAX 3579-2589  
（具体的な日程等は、後日手紙等でお知らせします）

## 赤塚の森ボランティアの1年—生き物たちからの通信簿

## 乗蓮寺下池の一年

1998年の3月に始まり、実際に穴を掘り水を引き入れたのが4月18日、夏に雨が多かったせいか、水が涸れること無く年を越した。もともとから住み着いていた生き物は数が増え、新たに住み着いた生き物も何種かいるだろう。と、こうなれば池を掘った甲斐があるというものだが、さて実際はどうだろうか。折々の観察と1998年11月29日の観察会の結果をもとに見てみよう。ところが困ったことに、池を掘る前の調査をしていない。今さらもう遅い、推測半分以上で話を進めよう。

まずは、クロスジギンヤンマ。池掘り後、1ヶ月も経たない5月10日の観察会、皆の前へ飛来、驚いた。トンボも驚いたかそれっきり。5月30日には産卵を確認。その後幼虫は、流れこみの浅場、深みの両方に見られた。11月29日にも浅場で大きく育った1匹を確認。



池が出来てからの新参者であるのは確実。羽化は4月中、下旬の予定、楽しみにして下さい。

意外だったのはオニヤンマ、6月20日、池の周りの植込みに止まっているのを目撃。羽が少し破れている、どういう訳か動きが鈍い、写真撮影には都合が良いが心配である。2,3時間後もそのままであった。7月18日には江戸さんが石垣でヤゴの抜け殻を発見。オニヤンマは成長に3,4年かかるので、旧住民であるのは間違いない。9月10日には鈴木秀男さんが、美術館裏の水路で産卵を目撃。期待がもたれる。

オオシオカラトンボは成虫も脱皮殻も多く見られた。旧住民、羽化数は増えたと思いたい。イトトンボ(種名未確認)も少ないながら幼虫、成虫が見られた。

その他には、微小ガムシ、アメンボ、マツムシ等が見られたが、種名確認が必要。

11月29日の調査では流込みの浅場に網を入れてみた。カワゲラ(4月に成虫がいた)、カゲロウ、ガガンボの幼虫多数、ヒル(シマイシビル?)数匹、ミズムシ(等脚目)多数、サカマキガイなど、いずれも種名確認後目録を作りたい。

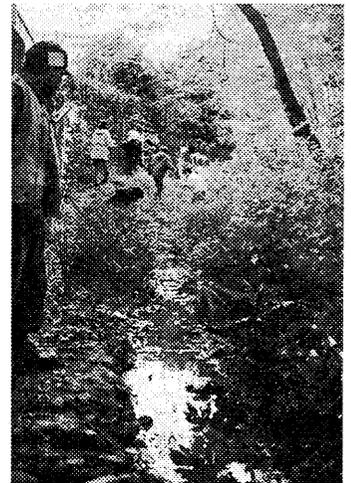
## 美術館裏の水路は面白そう?

オニヤンマ産卵の情報で期待し、11月15日に予備調査。ところがアメリカザリガニばかりでヤゴなどほとんどいない。ザリガニにみんな食べられてしまったのか?

そんな訳で29日はザリガニ採り大会と化す。小型がほとんどだが実に157匹の大漁。他に?エビ(ヌカエビとヌマエビが別種とは知らなかった、オソマツ)20匹、カワニナ多数、小さいヤゴとカワゲラが少し、実に昆虫が少ない。ザリガニは全部、あさひが丘児童館の佐藤さんに引き取って頂く。子供達に配ってみるとのこと。他は再放流。

## 堆肥置き場を覗いて見ると!

1997年の初冬、矢田さんの号令のもと、竹柵を作り、落ち葉を溜め込んだ堆肥置き場。12月12日、底まで掘ってみる、何もいなかった。コガネムシの類は0。ハサミムシが一匹、ヤスデが2,3匹、ドバミミズが数匹、以上である。落胆はまだ早い、今度も落ち葉をどんと積みました。



(釣巻岳人)

## ボランティア活動講座「赤塚観察会」に参加して

高野 十太郎

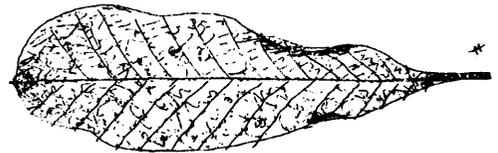
4回目の自然回復ボランティア活動講座はあいにく雨でしたが、多数の方が参加されました。講師の藤本先生の先導で美術館前を出発してすぐ、カラスウリを観察中、メジロの声が聞こえ飛び去るのが見えました。メジロは頭から背中が濃い緑色の小さなかわいい鳥です。目の周りに白いアイリングがあり、それがくちばしとところが欠けており、アルファベットのCを逆にしたようです。メジロという名前もなるほどと思います。

溜池にカルガモ2羽、スズガモ(メス)1羽。普通スズガモは大きな群でいるのですが、中にははぐれ鳥もいるんですね。

郷土資料館の横を抜け、染色工場の跡地に出た所で先生が黒い実を拾い上げ、「これはムクですね。ムクの木にはムクドリがたくさん来ます。ムクの木に来るからムクドリなのか、ムクドリが来るからムクの木か、その辺になると卵とニワトリのどちらが先かと同じになります」と笑われました。確かにムクの木にはムクドリが来ます。でも近頃はムクドリよりも先にキジバトがやってきます。熟すのを待ちかねたように早々と来ます。キジバトが平野部、都会で見られるようになったのも近々30年位前からですが、何しろ体が大きいのでたくさん食べます。ムクドリやツグミ、シメ、ヒヨドリなどは、その余りをいただいているのです。「食べて甘い実は鳥も獣も共通で、色はきれいでも食べてまずいのは鳥専用です」という先生のお話です。あまり用途がないムクの木が人家の近くにうえ

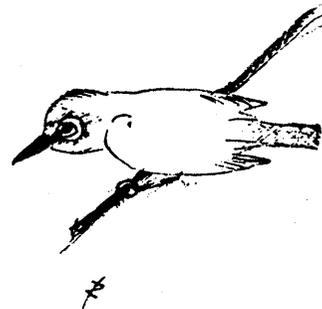
られているのは、ご先祖様も食べていたのかも。

ムクの木の手脇にサイカチの木がありました。「<sup>さいかち</sup>妻勝」だそうで男にはうれしくない名前です。城跡公園からトンボ池のピオトープに向かう道の左手の林の中にホオノキがありました。「古くからある木なので、ぜひいつまでも残しておきたい。昔はあちこちにあったが今は珍しくなった」という先生のお話。ホオ葉みその話もできました。でも私は<sup>ほめば</sup>朴齒の高足駄が懐かしいです。



ホオノキの少し先にピフの木の花が咲いていました。「虫のいないこの時期、花粉を運んでくれるのはメジロです。ピフは鳥媒花です。」と説明がありました。メジロはウメの花の蜜も吸いにきます。それでよくウグイスと間違われます。ウグイス餅、ウグイス黄粉などというようにウグイスは緑色とされていますが、本当はウグイスは地味な茶褐色をした、メジロより一回り大きな鳥です。

トンボ池の観察を終え乗蓮寺の裏に向かう途



中、今し方下ってきた砂利道の方の木々の梢にカワラヒワが群れているのが見えました。湧水のマンホールに行く時、先頭の方はジョウビタキのオスを見たそうです。ジョウビタキはオスとメスの体の色が違い、はっきり見分けられます。美しい割に気性の激しい鳥で、縄張りの中では止まった車のミラーに写った自分の姿にも攻撃するほどです。

不動の滝を見て美術館に戻る時、池田園の柿の木にメジロが群れていました。少し戻って木の下に行き、メジロがすぐ下の人も恐れず熟柿

をついばんでいるのを、「どうして食べ慣になつたのかわるのかしら？」などと言いながら傘をかしげて見上げました。

メジロに始まりメジロに終わった活動講座でした。

植物から昆虫、ほ乳類まで多岐に渡る講師の藤本先生の明快な解説も、雨の中、十分にメモをできなかったのは残念でした。またお会いできる日を楽しみにいたします。

根が鳥好きなので鳥のことばかりになって恐れ入ります。

## 遠い昔の暮らしと自然 ①どじょう取り

矢田 茂

水と緑の会は、市民の手による自然の回復や創造を目標に掲げています。先輩達が身近にあるものを使って、手作りでものを作ったり、地域を整備した知恵や技術を見習いたいと思います。

昭和ひとけたの不景気のまっただ中に四日市で少年時代を過ごされた矢田さんに、遊びや労働のなかで体験された自然や、地域との関わりを連載でお願いしました（事務局）。

この村に移り住んだ昭和8年は、軍靴も聞こえる戦争気分。小学校の4年生にはそれどころでない毎日があった。夏休みともなれば、「どぼかご」と「さで」を持ちどじょうすくいだ。中にはふりちんの泥がえるもいる。小さな川は、打ち出の小槌ともいえる子供の国、日が暮れても取っていた。

取ったどじょうは百匁もんめ（約380g）を一銭ほどで川魚屋に売る。算術もできない通信簿の丙や丁が、売り込みになると大人以上にうまく売る。よそ者の私にはただ尊敬するばかりであった。

売った金は親に渡し、親は一銭を分け前としてくれる。ネコババもするが、五銭や十銭の白銅貨は、使うと目立って駄菓子屋の婆から親に

筒抜けになるので、せいぜい一銭だ。私は、先祖に守ってもらうように、隠し場所を墓の下にして大切に一銭玉をあつかった。どじょうは雨や曇りの日は散って取れないし、用を言いつけられたときはできないので、稼いだ一銭玉は、大切なお宝であった。

ところで主力とも言える道具の「さで」は、寸法はおおよそ次のようであった。底の網は50cm位の正方形で、三方を40cmほどの網で囲い、一方だけどじょうを追い込むために空けてある。網の部分は大人がつくるが、その先は子供の仕事。大人の親指ほどの太さの二年物の青竹を堤防で切ってきて、「さで」に組み、はずれないように四隅をしっかりと止めて仕上げる。

冬になると子供同士が集まり、日向ぼっこを



## 要望書について話し合いがありました

小松 容子

12月22日(火)、会長の鈴木さん、釣巻さん、坂本さん、小松の4人で、上野にある東京都の東部公園緑地事務所で、話し合いの機会をもつことができました。

初めてのことなので、顔合わせということで、管理課長の森田さん、事業推進課緑化推進係長の横塚さん、北条さんの3人の方が対応してくださいました。

赤塚公園は23区の中でも生物が多いところ です。当日、釣巻さんは赤塚公園で調査した昆虫の一覧をまとめて参考資料としてお渡ししました。自然環境をなんとか残し、生物の生息環境の視点からの管理や整備をお願いしました。

また、私たちは、区が実施する赤塚溜池公園の自然回復事業に参加・協力していることや、赤塚公園での活動状況を説明しました。

都立公園としては、住民参加による公園づくりは東京都の方針であり、事業推進課が担当し、現在3区でケーススタディとして始まっているそうです。

### 要望書について

- 1) 長期的に計画については、現在の状態で大きな改修はない。  
自然地を増やすことについては、地域の人に好まれる公園ということで、いろいろな要望に答えていく必要がある。
- 2) 情報公開と住民意見の反映については、都立公園の整備計画等を区に対して情報提供し、区から情報が流れるような方法を検討

する。

- 3) 公園管理については、草刈りを年2回程度、樹林地の手入れは予算との兼ね合いで様子を見て不定期に行っている。具体的には公園協会が設計し、実施しているので、直接担当者に聞いてほしい。

草刈りの時に、山の上の広場などの草を刈り残すような具体的なことについては、赤塚公園管理所と話し合うことになり、また、東部公園緑地事務所管理課でも対応して下さることになりました。

都立公園の維持・管理を行っている東部公園緑地事務所と話し合いの窓口ができたことはとてもうれしいことです。

定期的な観察・調査を行い、どのような林が望ましいのか、会としても検討を進めていきたいと思います。

~~~~~  
(前ページ下から続く)

ティア活動に関心があり、新たにボランティアを始めようとする人、活動の仲間を増やしたいという団体の交流の場として作られたものです。

参加団体は、福祉、環境、教育、NGO(非政府組織)、地域活動、などの40団体。

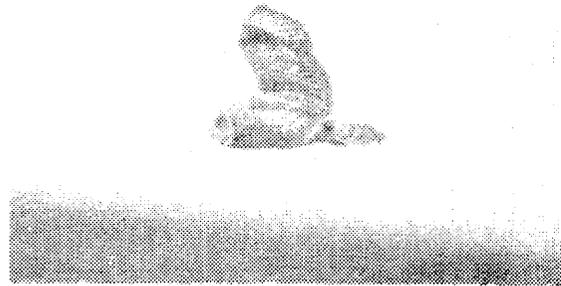
第1回打合会に眞崎・江戸が出席しました。広場では会の紹介などをしたいと思います。何かよい考えがあつたら教えていただいたり、お手伝いいただけるとありがたいと思いますので、よろしくお願いします。

## コミミズクと陸上競技場

栗林 菊夫

生態園と中規模自然地との間に陸上競技場が割り込むようになっていた案を話し合いの上、陸上競技場と中規模自然地の位置を交換し、中規模自然地が生態園と接することに合意しました。

ですので、陸上競技場の工事が行われるのは、事実なのですが時間的に、コミミズクが春になって北に帰ってから着工して欲しかったのですが……。それでも、12月12日にエコポリスセンター・コミミズクと冬鳥観察会の時には、4羽のコミミズクが見られました。たくましくコミミズクは、生息しています。作業の着工によりコミミズクが利用できる面積が減りましたが、上流側に残った面積の割合で、生き残れる数のコミミズクが見られると思います。それで、1月9日(土)に新聞、雑誌などに掲載してもらい、午後3時頃より、コミミズクを探す会を開催。遠くは千葉県館山市や関東周辺から約80名もの参加者がありました。夕暮れ5時過ぎまで粘りましたが、今回、どうしたわけか、コミミズクは、とうとう草地の上を飛びませんでした。でも、これだけの参加者が、わざわざ板橋区まで足を運んでくれたわけで、たいへんありがたいことでした。これから、陸上競技場の工事も進むと思いますが、生き物にも生息できる環境を残してやりたいと願っています。



11月20日に、いたばし野鳥クラブの調査観察会のあり、コミミズクが越冬する場所で作業が行なわれているのを目撃しました。ここは98年度に板橋区が陸上競技場を作る場所で、今、建設省荒川下流工事事務所が先立って、作業を進めているのでしょう。機械などで草刈りが行なわれ、柳などの木は刈り残されていました。この時、タカ!!と言う間に、鳥は草地に舞い下りました。後から考えるに、タカはコミミズクだったと思います。この後、生物生態園前で昼食をいただき、食後、野球場に出来た新しい手洗いに寄ったら、草刈り作業をしていた女性作業員の方が、私たちに声を掛け、コミミズクが6羽、飛びだしたと、知らせてくれました。

12月に入って、下流事務所で「しぜん懇談会」があり、その時に作業の状況を聞き、現在の地盤の高さを本来の高さにするとの話だったように聞き、みどりと公園課では陸上競技場の工事を行うとのことで、下流事務所と公園課との間で、話に差があるように感じました。この件は、別に荒川市民会議が行われており、生物

### お知らせ

板橋区役所環境保全課のEメールのアドレスが変わりました。

kankyo@city.itabashi.tokyo.jpです

### 「第一期板橋区荒川市民会議」概要とお知らせ かがみりょう

2年前の平成9年の2月頃より荒川将来像計画の内容に基づき、荒川下流域の2市7区で荒川市民会議がスタートしました。そして2年間の一期が終ろうとしています。そこで、簡単にではありますが、どんな会議でどのような成果があったのか、書こうと思います。

#### 市民会議の構成

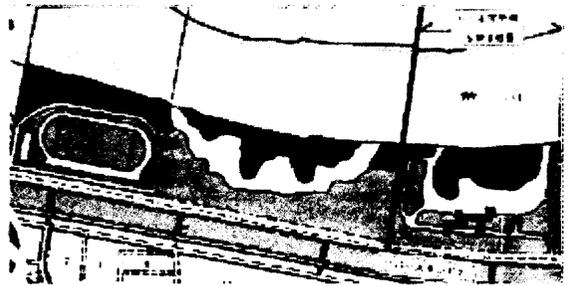
- ・事務局は区のみどりと公園課+荒川下流工事事務所+パシフィックコンサルタント
- ・議長は区の選んだ埼玉大学の生態学の教授、佐々木寧氏
- ・構成員は前年10月までに参加希望し、荒川への気持ちを書いた作文にて提出した34名の市民

#### 経過

- ・規約の検討、議長の承認など、事務局主導の形でスタート
- ・話し合いは運営に対する不満や、噛み合わない話し合いなど、うまくすまなかったが、グループごとのワークショップ形式や、現地視察、勉強会などを取り入れ、だんだんと話し合いはできるようになった。

#### 話し合いの主な議題は次の2点

- ・陸上競技場をどうするか（つくる、つくない、位置など）
  - ・中規模自然地の位置と内容
- 話し合いの結果は陸上競技場を上流へずらし、自然地を一体化させることになりました。



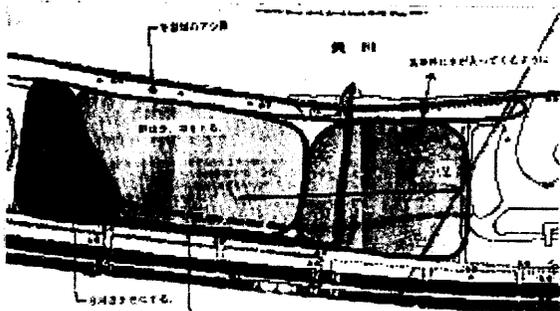
変更後のプラン

#### 次期の板橋・荒川市民会議について

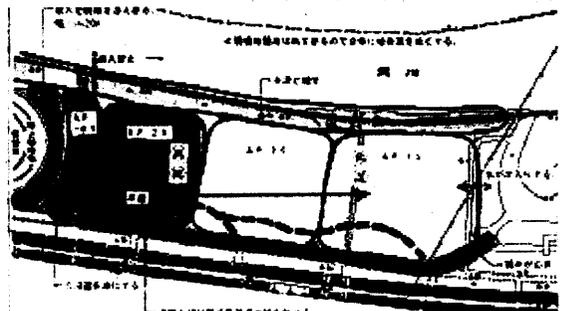
- ・1月の広報いたばして、2期の参加希望者を募る予定（1月9日号にはない）
- ・作文提出（一期の参加者は一期の感想）
- ・予想される議題
  - \* 中規模自然地のより具体的な内容
  - \* 笹目橋緑地の区としての関わり方
  - \* 野球場、サービスステーションの整備
  - \* 草地系広場・乗馬場・デイキャンプ場

などです。自然や荒川に興味のある方は2期にご参加ください。市民会議参加募集の記事を見落とさないように。

#### 中規模自然地はまだ結論が出ていない



中規模自然地A案  
(旧河道の池、草原、湿地、感潮域のアシ原)



中規模自然地B案  
(全体が感潮域、土手沿いの護岸)



## 活動のお知らせ

### ～ 新年会 ～

初めての方も、年の初めにおでんでも食べて、お酒を飲んでお友達の輪を広げましょう。ホット情報も聞けるよ。会員でないゲストも歓迎です。2月定例会はこれに変えます。会員は名前札（お送りしたものをまだ持っていますか）をもってきてください。

日 時：2月5日（金） 18:00～20:00

場 所：下板橋駅前集会所 2階和室（板橋2-3-1 下板橋駅すぐそば ヨークマートの線路側）

会 費：1000円（連絡先：坂本（3579）2598）

3月定例会は3月4日（木）18:30～ 産文ホール4階第4会議室で（食事持込み可）。どなたでも。

### 荒川自然回復団

#### ●ヤゴネットこども環境会議

日 時：1月17日（日） 10時

場 所：荒川知水資料館

JR赤羽駅東口9:0～9:45送迎バスあり

問合せ：かがみ（5944）7505

#### ●バンディング（野鳥調査）勉強会

翌日のバンディング（野鳥調査の一種）について、事前に講師の梶田さんが、スライドなどを使って解説してくれます。バンディングを知る良い機会ですので、参加してください！

日 時：2月20日（土）午後6時30分

集 合：産文ホール第2会議室

交 通：東上線大山駅 徒歩5分、

都営三田線板橋区役所前駅 徒歩6分

講 師：梶田 学（鳥類研究者）

参加費：200円

問合せ：栗林（3959）2072

#### ●荒川・バンディング見学会

日 時：2月21日（日） 午前9時30分

集 合：都営三田線西台駅前（直接可）

講 師：梶田 学（鳥類研究者）

持ち物：はし、お椀、カップ、おやつ、双眼鏡、凶鑑、手袋、防寒具、その他

参加費：600円（食費込み）

注 意：会場は舟渡斎場前の河川敷（生物生態園周辺）で行ないますが、位置がずれることがあります。温かくしてお出かけ下さい。今回は、ご飯とトン汁を用意します。

問合せ：栗林（3959）2072

### 赤塚の森ボランティア

#### ●世話人会

ニリンソウの会と一緒にこれからを考えます。

日 時：1月16日（土）13時30分～16時

場 所：赤塚5丁目集会所

連絡先：坂本（3579）2598

#### ●巣箱づくり教室

日 時：1月15日（金）9:45～12時

場 所：赤塚公園管理所前集合（高島平3-1 高島平駅下車 徒歩10分）

定 員：先着25組

申込み：赤塚公園管理所 3938-5715

その他：材料は用意してあります。汚れてもよい服装で。

#### ●冬の林の観察会

日 時：2月7日（日）10時～12時

集 合：板橋区立美術館

連絡先：釣巻（3961）2875

#### ●赤塚自然マップづくりのお願い

応援して下さる方はご連絡下さい。

11月の自然発見ウォークの経験を生かして、日本財団の援助金（47万円）で、3月までに自然マップ（仮称）を製作・印刷します。いたばし水と緑の会の紹介もできます。

・マップづくりのアイデア、自然情報などを提供してください。

・動植物や風景の写真・スケッチ、イラストなど、提供して下さい。

・イラストがとくいな人

連絡先：坂本（3579）2598

FAX（3579）2589